

～株式投資で勝つ方法～ ―エライ人の金言編―
その1 ウォーレン・バフェットに学ぶ (全4回)

2005/04/22 太田寿一

第2回 4兆4000億円稼ぐ仕事術

バフェットが実践している投資哲学は、小学生でもわかるくらい簡単です。もちろん彼には人並み以上に卓越した洞察力、予測力などがあることは否めませんが、それでも「**例外的な結果を得るために、例外的なことをしなければならない、ということでは決してない**」と語っています。

バフェット成功のルール

- 1 株式市場から離れる
- 2 経済一般のことを心配しない
- 3 買うのは企業、株ではない
- 4 株主は経営しない
- 5 わからないことには手を出さない

さらにこの5つに加えて、株を選ぶための企業・経営・財務・マーケットそれぞれに関する詳細な指針も持っています (次回詳しく解説)。それでは、これらについて1つずつ見ていきましょう。

成功のルール1 株式市場から離れる

株式市場とは人々の熱狂と悲観の間で右往左往するもの。すなわち理性よりも感情が支配する狂気のある場です。投資にとって重要なことは、“**客観的にかつ理性的に企業を評価すること**”です。市場にいと、上下する株価や「専門家」の分析などでどうしてもその判断が鈍ってしまいます。市場よりも、投資している企業を理解しているという確信があるのなら、市場を無視してしまうことです。

成功のルール2 経済一般のことを心配しない

投資をするにあたって、経済成長がどうだの、金利が上がったのだの下がったのだの、インフレかデフレかなどは誰もが考えることです。しかしバフェットはこれらのことを一切気にしません。というのも、バフェットは**経済情勢に関係なく収益を上げる力を持つ企業のみ買う**からです。

経済動向に頼った投資法はとても非効率です。というのも、特定の経済情勢に合う銘柄を選んだとしても、次の経済情勢に合うようにまた銘柄を選び直さなければいけないからで

す。それよりは、収益力のある企業を買い、放って置く。こちらの方が簡単で儲かります。

成功のルール3 買うのは企業、株ではない

投資家の大多数は、株価を見て企業を判断します。だから大多数の投資家は損をするのです。真の投資家が買うのは株価ではなく企業です。**魅力的な企業に投資をして、そして利益を分け合う。それが投資の本質です。**私たちは決して株価を見てはいけません。チャートも見る必要はありません。株価を見るのは最後の方、「さてこの株は幾らで買えるのか？」という時だけです。

成功のルール4 株主は経営しない

このルールにのっとって選んだ企業は全て粗利が高く、高収益な素晴らしい企業です。それなのに株主だからといってわざわざ経営に口を出すことはありません。**株主は優秀な経営者の邪魔をしてはならないのです。**黙ってても彼らはあなたの資産を殖やしてくれます。

成功のルール5 わからないことには手を出さない

古い話ですが、バブル崩壊のとき多くの人たちが損をして多くの借金を背負うようになりました。なぜ彼らはあんなにも多くの借金をしてしまったのでしょうか？それは株価が下がったからではありません、**知りもしないことに手を出したからです。**果たしてあの時代、どれだけの人が株について知っていたのでしょうか？ただ「簡単に儲かるから！」という言葉に踊らされて買っただけです。

投資家は、株を買う企業・業界に対して十分な調査を行い、できるだけ知り抜くべきです。それでようやく土俵に立てるのに、何も知らないで始めたのなら・・・身ぐるみを剥がされるだけならまだマシです。

◇成功者の金言コーナー◇

・ウォーレン・バフェットの投資に関する2つのルール

ルール1：決してお金を失わないこと

ルール2：決してルール1を忘れないこと

・成功の80%は、人を出し抜いた結果だ（ウディ・アレン）

参考文献 『マネーマスターズ列伝～大投資家たちはこうして生まれた』（2000）

ジョン・トレイン（著）、坐古義之・白杵元春（訳）、日本経済新聞社

『株で富を築くバフェットの法則』（1995）

R・G・ハグストロームJr（著）、三原淳雄・土屋安衛（訳）、ダイヤモンド社

『マンガ ウォーレン・バフェット』（2003）

森生文乃（著）、パンローリング